

もくじ

はじめに



- ☎ **起業したい! でも、何からはじめればいいのか?** ----- 4
- いろいろな起業のカタチ** ----- 6
- 起業をする前に相談しよう** ----- 8
- 知っておきたい起業のキホン** ----- 10
- どんな事業をするか考えよう** ----- 12
- 事業するには「理念」が大事** ----- 14
- 「屋号」「商号」を考えよう** ----- 16
- ☎ **起業ってお金がかかるの?** ----- 18
- 起業にはどのくらいお金がかかる?** ----- 19
- 資金を集めよう** ----- 22
- 自分の事業をアピールしよう** ----- 26
- 会社を設立する前に知っておこう** ----- 30
- 会社を設立する流れを見てみよう** ----- 32
- 起業のスケジュールを立てよう** ----- 34
- 事業の届け出をしよう** ----- 36

さくいん 39



はじめに

近年、AI（人工知能）の進化は目ざましく、社会が大きく変わろうとするなかで、日本国内の人口は年々減りつづけ、働き手の高齢化も進み、仕事にはより効率化・省力化が求められるようになりました。

今では、これまで人が行ってきた仕事の一部をAIやロボットが担うようになっていたり、劇的に進化するIT（情報技術）があらゆる場所で活用されるようになっていたりするなど、仕事の「スマート化」が行われています。近い将来、多くの仕事がスマート化されることで、みなさんが「将来なりたい」と思っていた職業が、大人になるころにはなくなっているかもしれません。

そこで、これから必要になるのが、夢やアイデアを持ってみずから事業を起し、仕事をつくっていくという「起業家精神」です。

今ある職業のなかから、将来自分が働く姿を思い描くことも大切ですが、これからの社会で必要になるような「新しい仕事」を自分で生み出すことも、大切な選択肢となるでしょう。そのための手段となるのが「起業」です。

この本では、実際に起業をするために、何からはじめればよいか、誰に相談すればよいか、どういう手続きがあるのかなど、具体的なことを学んでいくことで、「起業」をより身近に感じることができるようになっています。

みなさんがこの本を通じて、「起業」に関心を持つきっかけになれば幸いです。



起業
したい!

でも、何からはじめればいいのか?

放課後——

起業クラブ
メンバー募集

未来、起業したい人が集まって、起業クラブが発足。起業について学ぶことになった

お、けっこう集まったね
ミサキ先生

みんな起業に興味があるみたいです

やっぱりカッコいいしね
やれやれ、そんな動機で大丈夫か?
まあまあ

動機は何であれ、興味を持つのはいいことだね

先生、起業するには、何からはじめればいいですか?
メイ

とりあえず、会社をつくれればいいんじゃないかな?
会社ってどうやってつくるの?

インタビュー(第1巻)で見てきたように、大人の人に代表になってもらえれば、子どもでも会社はつくれます

会社

子ども 大人

でも、会社をつくるだけが起業じゃありません。起業にはいろいろな形があります

そうか、個人で仕事をはじめるというのがあった
ソウタ

ほかにも、NPO法人や一般社団法人といったものもあるよ!

ほうじん

法人

ほうじん?
お願いします
くわしく教えてください!

では、これから、いろいろな起業の形や、起業をする前の準備について勉強してみましょう

いろいろな 起業のカタチ

「会社をつくる」ことだけが起業じゃない

「起業」というと「会社をつくる」ことにこだわりがちです。しかし、起業にはいろいろな形があり、自分のやりたいことや目的に合わせて選ぶことができます。

● 個人事業主

起業は、一人でも思い立ったらすぐにはじめることができます。まんが家やピアノ教室、町の小さなパン屋、YouTuberなど、個人で事業を行う人を「個人事業主」といいます。

● 会社

目的を共有し、利益を得ようと集まった集団が会社です。会社は個人事業主よりも取引先やお客さんから信頼を得やすく、銀行からお金を借りやすくなります。

会社やNPO法人、
一般社団法人のような組織を
「法人」というんだって
(30ページ)



● NPO法人

起業は利益（金銭的なもの）を目的とするものばかりではありません。環境保護活動や、困っている人びとを助ける福祉活動など、非営利*で社会に役立つ事業を行う団体をNPO法人（特定非営利活動法人）といいます。国への届け出が必要です。

● 一般社団法人

NPO法人の事業は、法律で決められた特定分野に限られます。一方で、同じ非営利法人でも「一般社団法人」は、法に触れない限り自由にどんな事業も行うことができます。国への届け出が必要です。

会社などの組織に入らないで、
一人で事業をする人を
「フリーランス」といって、
そのなかでも、事業を
はじめるための「開業届」を
税務署に届け出た人を、法律上、
「個人事業主」というんだよ

心配なら、まずは個人ではじめてみよう

何かアイデアや目標があって、「いつか起業したい、でも心配……」と考えているなら、最初から会社をつくるのではなく、まずは個人で事業をはじめてみるのもいいでしょう。手続きのいらないフリーランスや、手続きの負担が少ない個人事業主なら、自分のアイデアを試しやすいものです。

はじめのうちは、フリーランスや個人事業主として、事業を経験してみることで、お客さんの反応や売り上げを見て、自分の事業が

どれくらいまくいくものなのか、事業の進め方を変えたほうがいいのかなど、見通しが持てるはず。そんなふうにならば、経験を積み重ねていけば、自分の事業に自信を持つことができたり、会社をつくるべきかどうか判断しやすくなったりします。会社をつくるのは、それからでも遅くありません。

ほかにも、事業が大きくなって人手や資金が必要になったときなどに、あらかじめ会社設立を考えてもいいでしょう。

▶ 本業がフリーランスの人の年代別割合と有業者*に占める割合(2022年)

(総務省統計局「令和4年就業構造基本調査」より)

	実数	有業者に占める割合
総数	209.4万人	3.1%
15～19歳	0.3万人	0.3%
20～29歳	10.8万人	1.1%
30～39歳	28.9万人	2.5%
40～49歳	43.9万人	2.9%
50～59歳	46.9万人	3.2%
60～69歳	40.7万人	4.4%
70歳以上	37.9万人	7.1%

*有業者：ふだん収入を得るために仕事をし、調査日以降もしていくことになる者、および仕事は持っているが現在は休んでいる者（家族従業者は収入を得ていなくても、ふだんの状態として仕事をしていれば有業者とする）

正社員、パート・アルバイト、フリーランスのちがい

雇用主（会社）と労働契約を結んで、期間を定めずに働く社員を正社員といい、基本的にはフルタイム（1日8時間、週40時間）で働きます。原則としてフルタイムではなく、週の労働時間が短い労働者を、パートやアルバイトといいますが（パートとアルバイトに法的なちがいはありません）。

一方、フリーランスは労働契約を結ばず、個人で仕事を請け負う働き方で、自由に時間を使って仕事ができますが、それだけ責任も重くなります。

フリーランスの人は、
209万人もいるんだね

